

タリフジ 2024年(令和6年)6月8日



た場合18000円で、1日最大1万3000円だった。

報酬には、駆除後の解体や火葬場での焼却処分まで含まれているという。猟友会はメンバーそれぞれが高齢で、かつ仕事を抱えていることもあり、人間的にも対応は難しいと返答したという。

北海道の札幌市と旭川市の中間にある奈井江町の猟友会が町のヒグマ駆除への協力要請を辞退した。道内では市街地でのヒグマの出没が相次ぎ、奈井江町でも去年は20件の目撃情報があった。

ヒグマの生息地域は道東、道北では一般的だが、今は道内のそこらじゅうに出没している。私の別荘がある軽井沢でも、クマをはじめ、鳥獣は結構出没して、ときどき人が襲われたり、新幹線にはねられたりというニュースも聞く。意外に人のそばに出てくる。

これまで猟友会はボランティアで対応していたが、町がこの4月に「鳥獣被害対策実施隊」を設置し、協力要請の内容と報酬を設定したところ、猟友会側は報酬が少なすぎるとして反発した。報酬は日当4800円、見回り3700円、発砲し

クマの場合、ゴミ箱をあさっている。クマは賢い動物で、ゴミ箱を開ける力と知恵もある。だからゴミ箱にはカギがかかるようになっている。

命懸けヒグマ退治の安すぎる報酬 北海道 奈井江町

動物園のクマとは大違い

鳥獣による農作物の被害額は100億円を超えてきている。200億円に近いときもある。どんな鳥獣が農作物に被害を及ぼすのか。農林水産省の一昨年の調査では、被害額のトップはシカの約65億円、続いてイノシシの36億円。軽井沢の庭にもこの2種がよく現れる。バンビの印象があり、かわいがられているシカは若い芽を大量に食べてしまう害獣でもある。以下、カラスとサル、アライグマ、カモときて、その次がクマの4億円となる。

実は、私がスノーモービルを楽しむ長野のある地域の場合、鳥獣の駆除について、1日当たりの報酬などというやり方はしていない。シカを1匹射止めて、役場かジビエ料理の加工場などに持っていったら、報奨金がもらえる。これも最近では上がっていて、10万円単位にもなっている。クマの場合は一気に跳ね上がる。

地方では、夜になって食事に行くと、クマや鹿の肉、イノシシのしゃぶしゃぶを出されることもある。私はこういう料理が苦手で、仕方ないからそばを食べるしかなかった。

いずれにしても、成果報酬を大幅にアップすることもひとつのやり方ではないかと思う。

ビジネス・ブレイクスルー(スカパー!557チャンネル)の番組「大前研一ライブ」から抜粋。

関連動画
要チェック!

※動画閲覧に関し、タブレットで最適化されています。
スマートフォンではタップ、拡大してご覧下さい。